

令和2年度第1回 田辺市障害者施策推進協議会 会議録

1. 開催日時 令和2年8月17日 月曜日 午後7時30分～午後9時

2. 開催場所 田辺市民総合センター 4階 交流ホール

3. 出席委員 委員27名中 出席27名

4. 事務局 障害福祉室 馬場崎室長、山崎主任、梶垣事務員

5. 傍聴者 1名

6. 内 容

(1) 開 会

(2) 委員の委嘱

(3) 議 題

①令和元年度における障害者施策の実施状況について

- ・障害者福祉施策の実施状況と今後の課題について
- ・障害福祉計画の各サービスの実績について

②第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画の策定について

- ・障害者計画及び障害福祉計画の概要について
- ・アンケート調査実施の報告
- ・策定スケジュールについて

7. 議題に対する質疑応答

議題(1)令和元年度における障害者施策の実施状況について

- ① 障害者福祉施策の実施状況と今後の課題について
- ② 障害福祉計画の各サービスの実績について

●A委員

【資料1】令和元年障害者福祉施策の実施状況と今後の課題についての19ページの田辺市役所における平成31年度の採用実績の欄で、正職員及び臨時職員の内訳、また、身体障害者、知的障害者、精神障害者の採用者の内訳が載っているんですが、教えていただける範囲で結構ですので、この方々はどのような仕事をされているのでしょうか。

○事務局

市民総合センターの文書を本庁に運搬する仕事でありますとか、簡単なデータ入力の仕事等です。

●A委員

調べられる範囲で結構ですので、次の協議会で教えていただければと思います。

○事務局

総務課人事係に調査をかけた上で、次回の障害者施策推進協議会で報告してまいりたいと考えております。

●清水委員

紀南障害者就業・生活支援センターの清水です。今の質問ですが、身体障害者の方と精神障害者の方が、事務補助の仕事をしております。知的障害者の方は、簡易な清掃とか、公共施設に来場された方々に、ここから先へは行けないことを案内する見守り支援業務や公共施設の清掃の他、事務局からの説明にもありましたように、事務補助として文書の運搬とか、スポーツセンターの管理等で勤務されている方がいます。

●会長

例えば、発達障害者の方であれば、たなべるでの図書の整理とかは得意であるように、市役所において、実際にできる仕事が終わっていないのではないかと。

●清水委員

今、おっしゃられた、たなべるでの図書の整理については、既に発達障害者の方が勤務されております。

障害のある方が就職することは非常に難しいことでもあったりするんですけど、市役所の人事係の担当者と紀南障害者就業・生活支援センターのスタッフがいろいろと協議をして、まずはできる仕事をいくつかピックアップして実習させていただきながら、その実習の中で、さらにできる仕事があれば、幅を広げていっていただき、時間数を確保いただいているという経緯があります。

●会長

そういうふうな仕事はいっぱいあると思います。場合によれば、健常者よりも優れている部分もあったりするので、その辺はいろいろと手探りも含めて頑張らせていただきたいなと思います。

それと、障害者の雇用率の問題ですが、先ほどの説明の中で、市長部局と教育委員会部局と併せて、雇用率が達成されているとの説明でしたが、教育委員会の雇用率は、教育委員会のみでの計算となります。

今後、教育委員会はどうするつもりなのか。例えば、障害のある子どもたちを学校から卒業させているということは、社会に出しても独立できるというお墨付きを卒業証書という形で渡しているのである。早期に雇用率を達成していただきたい。

議題(2)第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画の策定について

- ① 障害者計画及び障害福祉計画の概要について
- ② アンケート調査実施の報告
- ③ 策定スケジュールについて

●B委員

資料4、アンケート調査11ページ、問38の「地震や津波などの大規模災害が発生した時、あなたはどこに避難しますか。」の質問なんですが、田辺市では、大きな地震の後、大きな津波が来る。その津波が来る前に、命が助からなければならない。まず、命

が助かるために、田辺市には津波避難場所がありますので、まずはそこへ逃げて、命が助かってから、次に指定避難所へ行くことになる。質問項目に、なぜ津波避難場所がないのか。

○事務局

問 38 の質問なんです、今回のアンケート調査につきましては、委託業者が前回の調査を参考とし、前回の調査と今回の調査が比較できるような質問項目となっており、すでにアンケート調査は発送している状況なんです、今、委員さんがおっしゃられたことにつきましては、次回の計画をつくる時に参考とさせていただきたいと考えております。

●C委員

先日、アンケート調査がうちにも届きました。うちには、支援学校へ行っている子どもが1人と卒業した子どもが2人いるんです。このアンケート調査は、本人ということなんです、うちには一部しか届いてなくて、家族や兄弟がいてる方もいらっしゃると思うので、必要な方には何部か送っていただきたいなと思います。

○事務局

今回のアンケート調査なんです、無作為に抽出して送らせていただいておりますので、ご理解いただければと思います。

●会長

今の質問は、書き損じたり、訳が分からず書いてしまったりとかあるので、そこはわかった人がある程度サポートしながら記入するという形をとればいいのかということをお願いしたいと思う。

そういったことも合理的配慮ということでお願いしたいと思います。一定の枚数であるということも理解しますが、今後のためにそうした配慮もお願いしたいということです。

●D委員

私のところにも、アンケート調査が届きました。問 44 の質問で、「悪くなっている」、「変わらない」、「良くなっている」の3つの中から選ぶとするんですが、以前の事がわからないので、今、よくなっているかわからないんです。無理やりどれかを選んだときに、このアンケート調査の正確さが下がるのではないかなと思うので、もう一つ「わからない」とか「感じない」とか等の項目がある方が、正確なものになっていくのかなと思います。

実際、私も福祉の仕事をしているんですが、前より良くなったか、悪くなったかと実感しづらいところもあったので、いきなりアンケート調査が届いて、良くなったか、悪くなったかと聞かれても、「わからないな。」と思いつつ、どれかを選んだら、どんどん不正確なアンケート調査になっていくのではないかなと心配しました。

●会長

県において、ポラリスの業務が、県内で田辺だけスポットが外れている状況となっているので、はなまる相談とうまく連携していかなくてはいけないのではないかなとの話しがでていっているんです。県は、やるような方向で考えているみたいなんです、今後、調整も含めて、県との話し合いをお願いしたいと思います。

○事務局

先日、西牟婁圏域自立支援協議会定例会に、ポラリスの職員さんがお越しになられて、今、おっしゃっていただいたお話はうかがっております。

(3)その他

●会長

それでは、次にその他にうつりたいと思います。全般的なことでも結構ですので、なにかございましたらお話してください。

●E委員

先ほどからの説明で、多岐にわたる事業がございますが、その中で、自殺の問題なんです。和歌山県は全国の中でも自殺死亡率が高く、その中でも、田辺市が高い。

こうした中、先般の新聞においては、その率が大変下がったと報道されておりましたが、まず一つ目に、その原因は何か。たなべるにおいても、自殺のコーナーが設けられていたのですが、こうした取組をされていることが、生きてきたのかというように、もし、おわかりでしたら、簡単にご報告いただけたらということ。

二つ目に、コロナの影響で、これから先、どうなっていくかわからない。しかも、議会で言えば予算付けとかという中で、これからの取組は大変難しいだろうなど。だからアンケートは、経年の傾向を見ることも大事であるが、これから先、見通せない中でのことなんかも出てきたときに、コロナの影響というのは、予測というか見立てというかについて、どういうふうにお考えでしょうか。

○事務局

まず一つ目の、田辺市の自殺対策についてですが、先ほども申し上げましたが、9月の「自殺予防週間」や3月の「自殺対策強化月間」において、啓発物品の配布等による啓発活動や、以前、講演会の開催を実施したこともございまして、こうした取組をしているのですが、これ以外で、障害福祉室で実施していることはございません。

「田辺市第1期自殺対策計画」は、市役所のあらゆる分野の事業に自殺対策の視点を反映させまして、地域づくりを進めていくという意思を明らかにするために策定したものでございます。

そして、「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現に関する施策につきましては、今、おっしゃられたように、広範多岐にわたるものでございまして、特定の部署のみでの対応は困難である状況にございます。こうしたことから、市役所のあらゆる分野の事業を整合性をもって効果的に推進していくために、「田辺市第1期自殺対策計画」を策定いたしました。今年の4月に策定したばかりですので、これからいろんな関係機関及び庁内関係各課と協議しながら、自殺対策に努めてまいりたいと考えております。

次に、コロナの影響による今後の見通しということなんです。障害福祉室においては、現時点では、予測がつかない状況でございまして、庁内関係部署とも協議しながらコロナに関する協議を行いながら、対策に努めてまいりたいと考えております。

●D委員

今年の4月、放課後等デイサービス事業所から、基幹相談支援センターあてに、コロナの影響で、学校との連携がどうなっているのかなと思うことがあるので調べてほし

いという連絡がございました。

そこで、圏域内の放課後等デイサービス事業所 15 か所をすべてまわり、現状と今後の見通しについて確認したところ、学校の先生が、行きたくても、事業者側から受入れてもらえないところもあるし、大きな組織になってくると、不特定多数の方の出入りを止めているところもありましたし、一方で、事前をお願いしているので、学校の先生からの協力をいただきましたという事業所もございました。それで、事業所によっては、利用者が通所を自粛するので、通所数が減って、採算がとりにくいという事業所もございました。

コロナの影響で、放課後等デイサービス事業所における印象としては、見通しの立たない中で消毒業務に追われる、学校が休んでいるのに、通所事業所は開いているので、学校に行けない子どもさんは、通所事業所に朝から夕方までいる。ということは、学校は休んでいるのに、施設の職員は、フルタイムで対応しなければいけないというジレンマの中で、みなさん頑張っておられたなという印象がありました。

あと、大きな社会福祉法人であれば、各事業所に対し、所属法人から、大量に物資が送られてくるのですが、NPO法人等の小さい法人では、物資の供給が不安定で、どうしていいかわからないと右往左往されている中で、横のつながりでフォローしていたという状況でありました。

●稲田委員

県立学校においては、3月2日から5月24日まで臨時休業させていただきました。そして、5月25日から5月末までの一週間は、試みの登校体制ということで取り組み、6月1日からは、分散登校を始めました。

この臨時休業期間中に、事業所のみなさんには、大変お世話になったことは大変ありがたいと思っておりますが、もう少し連携を深めるべきだったのではなかったのかという思いがある一方、何ができたのだろうかというところで、非常に課題を残しているなというふうに感じております。

また、関係する事業所を訪問させていただいたりとか、あるいは電話連絡等させていただきながら、状況を把握させていただきましたし、事業所からの依頼によりまして、本校の教員を派遣したという実情もございます。

いずれにしましても、今後、コロナの第二波、第三波という中で、どういうふうな関係性を保っていけるかということについては、大きな課題をいただいているところで

●米川委員

うちの法人の現状として、施設の数が多いというのもあるんですが、毎日、各施設から事務所に電話がかかってきます。誰かと誰かがこうなったのでどうすればいいですかという判断を求められることが多い。

今、現場は消毒も含めて徹底してやっているが、外からコロナが入ってきているので、現在、福祉の現場は最悪な状態になってきている。

利用者は比較的元気なんですが、家族によっては、コロナの収まりがつかないということで、徐々に休んでいる利用者も増えてきているんです。このことで、若干、補助はあるんですが、経営に影響します。

でも、一番悪いのはグループホームなんです。グループホームは、大体6名までの利用者がいて、1名の職員が一晩、看るわけなんです。グループホームでコロナがでた場合、どこへ逃げるかという具体的なものが何もないんです。入所施設であれば、例えば、インフルエンザが出た場合、部屋を確保し、隔離して対応したと思うんですが、グループホームはギリギリの状態で行っているところが多いので、余分な部屋がないんです。そうした時に、グループホームの利用者は、どこでどう対応するのかということがネックになっています。

和歌山市では、家を借りて、市内のグループホームでコロナが出たときにそこへ入れるようにと、民間で準備を始めたところが出てきています。しかし、そこへ入る職員及び支援者はどうするのかという問題も出てきていて、現在の制度とコロナとがうまく付き合えない状態になっています。

福祉現場の大変さは、支援というのは、やはり対人・対面ということなんです。利用者の中に、突然飛び出す人がいたら、職員は体を張って止めなくてはいけないですし、何とかして安全を守らなくてはいけないので、密接どころか、密着した支援となります。そんな現場があるということで、福祉を守らないと大変なことになるのではないかと思います。

●尾崎委員

私の入所施設で申し上げますと、当初、田辺市でコロナが発生した時に、ショートステイや生活介護の利用者の方々をストップすることとしたのですが、コロナが一旦収まりまして、次にコロナがでたら、今度はもっと範囲を狭めて、中辺路町で発生したらということで考えてきたんですが、一昨日、中辺路町でもコロナが発生しましたので、今後、どうしようかと考えています。

入所者は、施設にずっとおられますので、外へ出て行かない限りは大丈夫なんです。ショートステイで来られる方、それも家族の方の要望があって、一週間のうちに4～5日おられて、また家に帰られる方につきましては、我々施設の間は、徹底的に対応はしますけれど、家族の方が非常に心配されて、家に一旦帰ったけれども、買い物に行ったから、今度、ショートステイを利用させてもらえるかという心配があるみたいで、その点は、何とかしますというお話しはさせていただいております。

他の施設については、発達障害の方が飛び出してくるとか、特に作業所の方は、買い物に行く等、行動範囲が非常に広いので、どこでコロナに感染しているかわからない。うちの施設でも、2～3年前のインフルエンザの時に、完全にシャットアウトしていましたが、一人の方が家に帰られ、買い物に出かけた時にインフルエンザをもらってきて、全員感染しました。

今回のコロナは、インフルエンザの比ではなく、非常に怖いと思っています。それと、うちの法人には、特別養護老人ホームもございますので、とりあえず交流はしないことにしておりますけれども、コロナが入ってきた瞬間に、恐らく半分とは言いませぬけれども、かなりの方が亡くなられ、死と向き合わないといけなくなると思います。かなり逼迫してますといえますか、非常に怖い状況にありますので、コロナが入ってくるとすれば職員からということで、職員には強制はしていませんが、どこかへ行くなど言っています。

●会長

今、シティプラザホテルは、全く使っていない状況であると思うんです。ホテルの機能は残っていますし、使わなくなってから時間がたっていないですから、コロナの感染者を隔離するのに使えるのではないかと思うので、スタッフの問題等ではありますが、こうしたことも検討してみてもどうかと思います。

それと、2月の段階で、災害時に、コロナと台風と合わさったらどうするのかということ、国・県・市にも検討するように言っているんですが。そういうことも含めて、今後どうなっていくのかという問題は、やはり福祉計画的に言うと過去の結果についての報告という問題があるが、今後将来に渡ってどうするべきかについて、協議会で検討する必要があるのではないかと思います。特に、災害や防災の問題等は、当然、関わってきますし、それに伴う人権侵害という問題も発生してきますので、こうしたことを踏まえて、議論していきたいと思います。